

差別に立ち向かった闘い

1. 目標

○「渋染一揆」や「竹皮の闘い」などを通じて、厳しい差別になった人の思いを知り、差別と闘い、生活を守る闘いを乗り越えてきた生き方を学ぶ。

2. 準備物

- ・教科書
- ・資料集など

3. 所要時間

全1回（50分×1回）

4. キーワード

団結

5. <指導計画>

	学習内容(○) 生徒の活動(・)	教員の学習支援(発言「 」)	留意点(◎)
導入 (5分)	○小学校のとき学習したかを確認する。 (雪駄作り 太鼓作りの工程) ・太鼓作りや雪駄作りについて説明の動画を見たり、教師の説明を聞く。	・雪駄づくりや太鼓について説明をする。 「雪駄または太鼓は、どうやって作るのか知っていますか？」	※ 教師側で、雪駄や太鼓づくりの資料を確認しておく。 鹿児島県人権教育資料など
展開 (40分)	○資料プリントをみて考える。 (史料A 1855年儉約令 史料B 嘆願書) ○意見を交流する ・気づいたことをグループで交流する。	「2枚の資料(渋染一揆・嘆願書)から 気付くことを抜き出そう」	◎難しい言葉・用語については解説していく。
	○「竹皮の戦い」を読んで、自分自身を重ねて考えてみる。(竹皮の闘いに関するもの) ①個人→グループ→個人 ②教師からの解説 ○全国各地で儉約令に対して立ち上がった闘いがあったことを知る。 武州鼻緒騒動など	「この資料から考えてみましょう。」 「団結して闘っていく姿から、自分自身の生活を振り返り考えることを書こう。」	◎我慢するのではなく、仲間を作り、団結していったたくましさなどの姿をとらえさせたい。
まとめ (5分)	○今日の振り返りの学習をする。		・これらの動きが、解放運動へもつながっていったことも確認しておく。

参考資料

絵本「もうひとつの日本の歴史」中尾健次 エルクラブ

(史料A) 渋染一揆 別段御触書の内容 (「部落史をどう教えるか」第2版「解放出版社」)

(史料B) 嘆願書 (「部落史をどう教えるか」第2版「解放出版社」)

◎竹皮の闘い(大阪)

被差別部落にとって重要な生業である雪駄表の原料である竹の皮を 問屋が値上げしたことに端を発しています。1850年、摂津・河内・和泉国 の17部落の人々が寄り合い、問屋と交渉し、値下げを約束させるのですが、これを守らなかった2問屋に対し不買運動を組織し、ついに問屋を屈服させています。ここにも、したたかに、たくましく生きた被差別民のすがたがありました。

◎武州鼻緒騒動(埼玉県)

1834(天保14)年、武蔵国(現埼玉県毛呂山町)の被差別部落の人が下駄の鼻緒を売りに行った際、問屋やそこにいた人びとが暴力をふるったり、安く買いたたいたことをきっかけにおこりました。

百姓とのトラブルで多くの処罰者を出すのですが、部落の生活と名誉を守るために「一度死ねば二度とは死なず。一命を捨てる は本望なり」と言い放ち、命をかけてたたかいに参加し、誇り高く生きた被差別部落の人々の生き方を語り伝えたものである

<参考文献>

- ・「小学校・中学校 社会 人権・同和教育基本資料 基礎的知識と学習指導案」『東京書籍』
- ・「部落史をどう教えるか」第2版「解放出版社」より